技術士 2 次試験に合格して

荒木　将
（あらき　まさる）

勤務先
株式会社東日本設計株式会社
技術部
〒064-0820　北海道札幌市中央区大通西 25 丁目 4-18
TEL　011-641-8600　　FAX　011-641-6611
E-mail　hns4@hns-web.jp

■ 専門：上下水道部門（上水道及び工業用水道）

1. 自己紹介

このたび技術士第 2 次試験に合格し、技術士会主催の歓迎会の席で、広報委員の方から投稿依頼のお話を頂戴し、執筆しております。私は、1971（昭和 46 年）年に北海道で生まれ、大学進学を機に東京で学生生活を送り、卒業後、縁あって 1995（平成 7 年）年現在の会社に入社し、今年で入社 18 年目になります。現在、札幌に勤務し、北海道内の市町村に対して、水道施設の計画や管路設計業務を主におこなっております。

自分の業務経歴を振り返ると、多種多様な業務に携わる機会と、いろいろな地域の方々に接する機会を与えて頂き感謝しております。この経験が技術士に合格できた最大の要因であると思っております。

2. 技術士試験

技術士試験の受験動機は、会社で取得を奨励されており、社内の先輩が受験していたことがきっかけでした。今は名刺にある『技術士』の記載を目にして、改めて技術士としてふさわしい行動をとるために自己研鑽が必要であることをより一層感じているところです。

筆記試験に対する準備として、2 回目の受験までは（5 回目合格）、日常業務の忙しさを理由に受験準備をせずに、試験に臨んでおりました。しかし、技術士資格の重要性や周囲で自己実現している姿に触発されたこともあり、以後、過去に出題された問題を解くこと、そこに多く出てくるキーワードを自分なりにまとめ、IC レコーダーに録音し、聞いていたことは、今となっては有効であったと思います。しかし、経験論文の作成では、自分の業務に対する考え方の未熟さを痛感させられる事となりました。経験論文作成にあたり指導していただいた諸先輩の方々にこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。また、今回、運良く合格にこぎつけたのは、自治体のお客様や会社内外の諸先輩ならびに家族の協力があっての事と感謝しております。

3. 今後に向けて

施設の老朽化はもとより、施設の点在化、過疎化および人口減少、料金収入の減少等、北海道内の水道事業が抱える課題は、『日本の縮図』であると感じております。技術士として幅広い視点と長期的な観点から現状を分析し、この地域の課題を解決することは日本がもつ課題に対する解決の一助につながることを意識し、業務に邁進して参ります。

今回、幸いにも技術士試験に合格致しましたが、技術士として最低限のレベルに達したに過ぎないと感じております。“本物の”技術士になれるよう、今後、上下水道の分野を核としながらも、幅広い見識を身につけ、社会に貢献できる技術を身につけたいと考えております。また、一人でも多くの者が技術士試験に合格できるよう協力していきたいとも考えております。

技術士の諸先輩をはじめ多くの方々との出会いを大切にし、技術士としての社会的責任を自覚しながら自己研鑽していく所存でありますので、今後のご指導、ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

技術士２次試験に合格して

川村　文芳
（かわむら　ふみよし）

勤務先
一般財団法人日本気象協会北海道支社
防災・環境事業課 道路気象グループ
〒064-8555　北海道札幌市中央区北４条西 23 丁目
TEL　011-622-2230　　FAX　011-640-2381
E-mail　fumi@jwa.or.jp

■ 専門：建設部門（道路）

1. 自己紹介

私は 1969 年（昭和 44 年）に霞ヶ浦で有名な茨城県土浦市に生まれました。高校までは地元土浦で過ごし、大学進学（中央大学理工学部土木工学科）を機に東京で４年過ごすことになりました。大学では土木技術に関することを学んでいましたが、小さい頃から気象に強く興味を持ち、大学で唯一気象をテーマにした研究を行っている研究室があったことから、その研究室に飛び込みました。研究室に入ってからは北海道の夕張岳に登山してレーダー雨量検証の雨量観測や全国の一級河川の流出特性について研究しました。夕張岳での観測が終わったあと、学生だけで北海道１周の旅に出かけたのですが、北海道の雄大な自然に圧倒されてしまい、自然が好きな私はこの地に住んでみたいと思うようになりました。そして日本気象協会の就職試験では、勤務地の第一希望を北海道であることを伝え、希望通り入社とともに札幌で勤務することになりました。

1993 年（平成５年）に日本気象協会に入社し、５年ほどは河川の流出解析に関する業務に従事していました。その後、道路防雪に関する業務に従事するようになり、2006 年（平成 18 年）から４年間は北海道開発技術センターで道路や雪氷に関する業務及び研究に従事しました。2010 年（平成 22 年）に日本気象協会に復職し、現在は道路気象情報の統括リーダーとして主に道路管理者向けの気象情報提供に従事しています。

趣味は、野球、スキー、食べ飲み歩きなどです。野球はチームの監督をしていますので、対戦希望などお気軽にご連絡いただければ幸いです。

2. 技術士試験

一次試験に合格したのは平成 17 年ですから、それから７年の月日を経てようやく合格に漕ぎ着けました。本腰を入れ始めたのは３年前のことでした。きっかけは仕事でフィンランドに行ったときの経験からコンパクトシティ化による中心市街地のにぎわい創出やトラムなどの公共交通機関の発達例について記述し、初めてＡ評価をいただいたことでした。この試験では、設問に応じて自分の経験や考えを惜しみなく記述することが重要であると感じました。最近２年の勉強としては、事前に論文を用意するようなことはせず、会社で購読している専門雑誌（道路、建設、PE など）をチェックし、自らの専門に近いものや興味のある記事はコピーして最新技術の情報を収集するとともに、キーワードや課題を整理し、自分ならどう対応するか、専門家の論文などから知識を習得しながら考えました。

なんとか二次試験に合格すると、社内をはじめとした先輩技術士の多くの方から声をかけていただき、体験論文の添削や口頭試験に向けた対策についてたくさんご指導をいただきました。このとき、技術士仲間の素晴らしさを感じ、必ず合格の報告をもって恩返しすることを強く思いました。口頭試験対策としては、社内での模擬面接を２回実施いただき、さらに先輩技術士の想定問答を参考に、自分用の想定問答を綿密に作成しました。模擬面接で本番のイメージをつかんでおくことは極めて重要だと思いました。

3. 今後の抱負

技術士の勉強を通じて、自らの技術をもって公益に資することを学びました。今後は技術士の名に恥じぬよう、日頃から最新技術の動向に注視し、多くの技術士と交流を図りながら日々精進を積み重ねることで、視野の広い技術者となるよう心がけていきたいと思います。若輩者ではありますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

技術士 2 次試験に合格して

平村　徹郎
（ひらむら　てつろう）

勤務先
株式会社 平村建設

〒055-0107　北海道沙流郡平取町本町 92 番地 3
TEL　01457-2-2306　　FAX　01457-2-2800
E-mail　teturo_hiramura@vesta.ocn.ne.jp

■ 専門：農業部門（農業土木）

1. 自己紹介：

私は日高の平取町で生まれました。札幌での高校生活の後、弘前大学農学部で過ごした 4 年間に「農業部門」取得の原点があります。卒業とともに在京のコンサルタント会社に入社、西日本支社で 10 年ほど勤務しました。広島市を拠点とし、近畿・中国・四国地方を隈無く業務を行うなか、面積的にこそ北海道とほぼ同等圏域ですが、各府県・地域の農業のみならず産業特性や文化の多層化など、その都度、カルチャーショックの連続でした。

業務内容は農村振興計画等のソフト業務に約一年従事した後、ダムやため池、ファームポンドといった島嶼部や中山間地域での水源確保とかんがい施設の計画・設計を主としたほか、農道や橋梁設計、また低平地の排水対策など、多岐に渡りました。

口頭試験の際、「一般土木と農業土木の違い」の説明を求められ、農業土木は「発端が【食料・農業・農村】を主眼におく行為」と返答したように、広範の対象を扱う技術ジャンルです。とりわけダム事業では基礎・本体構造・管理設備、池内の安定やかんがい施設などの複合技術が必要とされます。

私の場合、大学の卒業研究でなじんだ土壌物理学がその基礎となりました。私の卒論は土の保水性、つまりかんがいにおける補給用水（さん水量）を定める手法の基礎研究でした。

かんがい目的のダムでは、受益面積、作付け等の営農形態から必要なかんがい用水（水源依存量）を算出し、ダム容量を定めます。大学での基礎研究に端を発し、ダム→かんがい施設→ほ場までの文字どおり「川上から川下まで」を業務のなかで経験できました。おかげで完成後のダムや幹線水路を眺めると同時に、受益地で「水が売れている状況」を眺めることで、苦労した経験が自分の血となり肉となっていることを感じます。

2. 技術士取得：

コンサルタントを退職後、家業の建設業に就きました。地方の過疎の街で施工に携わると、事業や設計の思想など、「川上での思想が施工の現場に反映されにくい」ことに気づきました。また厳しい自然・社会条件下で、仕様を満たし品質を確保することや、雇用確保など悩みの尽きない日々のなかで、西日本と北海道の多くの違いに気づかされました。農業もさることながら産業構造全体のギャップや、医療・福祉・交通など、特に過疎の地域では多くの課題に直面することとなりました。

故郷の北海道、生まれた地域のためにできることを着実に行うために、正しい情報や技術の裏付けとして、「技術士」が必要であると感じました。

3. 技術士として：

「技術士取得」はあくまで通過儀礼だと思います。特に私は前述の業務経歴のとおりスペシャリストではありません。よってこれまで同様に技術の深化はもとより、多角化を図ることが自身の今後の方向性だと考えております。

ここ数年、河川や森林の保全工事等に携わると、かつて自分が親しんだ自然環境との違いに気づきます。里山で小魚やザリガニなどが希少となっているのです。処理施設からの排水がいたる所に流入しており、生活環境の向上と引き替えに、かつてあった豊かさが失われているのです。こうした現象を誰かが注視することが、地域の将来にとって重要なことであると思い活動を始めました。

今後は広範な分野の先輩技術士の皆様との出会いのなかで、様々な情報や経験を参考にさせていただき、地方在住の技術士として、特に「過疎の農村部で、地域のためにできること」を地道に取り組んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

技術士２次試験に合格して

千葉　学
（ちば　まなぶ）

勤務先
株式会社 北海道技術コンサルタント
企画部
〒065-0043　北海道札幌市東区苗穂町４丁目2-8
TEL　011-753-5560　　FAX　011-753-4824
E-mail　chiba-m@dogi.co.jp

■ 専門：建設部門（河川、砂防及び海岸・海洋）

1. 自己紹介

札幌市に生まれ30数余年、北海道を生活の場とし、変化に富んだ気候風土や豊かな自然環境、大らかな道産子の気質を愛して育ちました。

2002年（平成14年）に北海道大学大学院量子エネルギー工学専攻を修了した後、4年余りの期間は製造業界に身を置き、家庭用燃焼機器の開発や要素研究を担当しました。仕事は現在とはまったく違った分野でしたが、趣味の釣りやスキーを通して、北海道の自然環境と自身との接点を意識するようになりました。

世の中に貢献したい、とまではいきませんでしたが、自分の愛する北海道を住み良くする為に役立つような仕事がしたいと思っていたところ、2006年（平成18年）に縁があって現在の会社に転職することとなりました。

それまでのキャリアからすれば、河川のコンサルタント業はまったくの畑違いではありました。しかし、元から身近な現象の物理的な意味を知ることが好きで開発・研究職に身を置いていましたし、流れを扱うという意味では共通点がありましたので、まぁ何とかなるだろうと、あまり深く考えずに転職に踏み切ったように記憶しています。何より時々はフィールドに出掛けて、川の生き物や周囲の環境を見て歩けることが魅力でした。

2. 技術士試験について

転職後、技術士補の試験を受けないか、との指示を当時の上司から受け、技術士という資格について知ることとなりました。当初は、建設業界の経験が皆無だったことから、まだ受験資格がなく当分先の話だろうと思っていましたが、後に大学院や前職の経験も経歴となり得る事を知りました。また、職場の先輩方が取得に向けて苦労している話を聞き、建設コンサルタント業にはかかせない資格だという認識を持つに至りました。

１次試験は、１度目の受験で合格することができましたが、準備不足から科目によっては取りこぼしが多く、配点に救われた合格でした。そのような甘い取組み方が２次試験で通用するわけもなく、２度の不合格を経て、ようやく勉強時間の確保を真剣に考えるようになりました。

会社では夜遅くまで業務があり、家に帰れば２人の乳幼児に翻弄される生活の中で、勉強時間の確保は私にとって試験問題よりも難しい問題でした。ただ、会社では技術士の先輩方が寸暇を惜しんで論文を添削してくれるので、教えを乞う立場で甘えた事を言ってはいられない、そんな環境に置かれたのは幸運でした。

時間というものはその気になれば見つかるもので、朝晩の通勤電車での情報収集や論文の骨子組立てに始まり、帰宅していくつか家事を済ませた後の深夜や、図々しくもこっそりと業務の時間を割いたり、休日に家族の協力を得て机に向かう時間を作ったりなど、何とか工夫して、そして良い意味で周囲に甘えて時間を工面し、この度２次試験に合格することができました。

3. 今後に向けて

建設業界での経験が浅い中で様々な業務を担当してきましたが、ようやく専門分野という拠り所として、資格を得ることができました。しかしながら、資格取得自体はゴールではなく、専門家としてのスタートラインに立ったばかり。これまでとはまた少し違った視点で、数多くの現場を見て、経験を積んでいきたいと思っています。

昨年から、会社として新規業務分野の開拓を進めていることもあり、これまで以上に多様な業務を担当する立場になりました。一人の技術者としても、より幅を広げるチャンスと捉えています。今回、河川分野の資格を得た事を軸足として、他の分野の資格取得も視野に入れ、研鑽に努めていく所存です。その中で得た知識や経験を、周囲の人々や地域に還元できるような技術士を目指したいと思います。

技術士 2 次試験に合格して

横澤　亮輔
（よこざわ　りょうすけ）

勤務先
北海道富士電機株式会社
公共プラント技術部技術課
〒060-0041　北海道札幌市中央区大通東 7 丁目 1-118
TEL　011-221-5595　　FAX　011-221-5596
E-mail　yokozawa-ryousuke-8154@hfd.co.jp

■ 専門：電気電子部門（電気設備）

1. 自己紹介

私は 1980 年（昭和 55 年）に北海道札幌市で生まれ、現在の会社に入社して転勤するまでは札幌で過ごしました。高校は札幌工業高校、大学は北海道工業大学でいずれも電気工学を専攻して参りました。

勤務先は、現在の会社に入社してから 1 年後に苫小牧市への転勤があり、主に苫小牧市・室蘭市の浄水場・下水処理場プラント電気設備の増設や更新に関する業務に携わってきました。今年 4 月に札幌本社へ転勤となり、全社的な技術支援の立場としてプラント電気設備の設計企画業務に携わっております。

2. 技術士について

技術士という資格を知ったのは、他の資格勉強を行っている時でした。更に社内で唯一の先輩技術士の方が、機械部門ですが合格となったことを知り、私も是非この資格を取得して信頼される技術者になりたいと思い受験しました。2007 年（平成 19 年）に一次試験を受験し、他資格の勉強も行っていたためか、1 回目で無事に合格となりました。

3. 二次試験受験体験

二次試験は 2012 年（平成 24 年）の今回で 3 回目の受験でした。短期間での勉強ではとても合格には結びつかない試験と感じていたため、普段より技術書籍はもちろん電気専門の情報誌で常日頃より情報収集を行うように心がけておりました。2012 年（平成 24 年）の筆記試験はあまり手応えを感じず、体験論文にも手を付けるはありませんでした。しかし、この年の筆記試験は、予想外にも合格しておりました。

合格発表から経験論文の提出締め切りは 2 週間程度しかなく、余裕のない日程でした。しかし、ご多忙にも関わらず添削を頂きました先輩技術士の方には、ただ感謝の言葉しかありません。この添削がなければ経験論文は完成することなく、合格も難しかったと思います。今年度より申込時に経験論文を記述する形式に変更となりましたが、時間が許す限り先輩技術士の方に添削を頂くのが合格の近道と思います。

口頭試験の日程は 12 月の初旬でした。こちらも経験論文を提出してから 1ヶ月という期間での準備が必要でした。模擬面接講座を申し込んで、実際に模擬面接を行うまでは、想定質問集や経験論文を録音したものを通勤時に聞いたりと対策を行いました。しかし、模擬面接でさえも緊張で頭が真っ白になり、思うようには行きませんでした。その際も、講師を行って頂きました先輩技術士の方から、様々なアドバイスを頂き、更に試験を受けるまでの間にメールでご支援を頂きました。このご支援がなければ口頭試験での合格も難しかったと思います。模擬面接も極力回数を設けて場馴れすることが、合格への近道だと思います。

4. 今後に向けて

今回、技術士を取得してやっと技術士としてのスタートラインに立てたと思います。まだまだ未熟な部分もありますので、今後は日本技術士会の活動に積極的に参加して、自己研鑽に努めます。そして、私自身が先輩技術士の方のご支援を頂いたように、後輩技術士の指導を率先して行いたいと思います。

更に、今年度の試験で他部門の受験も考えたのですが準備不足もありましたので、来年度以降で特に総合技術監理部門の取得を目指したいと思います。

最後になりましたが沢山の先輩技術士の方にご支援を頂きまして、無事に合格となりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

技術士２次試験に合格して

千葉　裕
（ちば　ゆたか）

勤務先
株式会社 北海道水工コンサルタンツ
技術部
〒060-0003　北海道札幌市中央区北３条西２丁目１　カミヤマビル８階
TEL　011-233-2655　　FAX　011-233-3455
E-mail　y.chiba@dosuicon.co.jp

■ 専門：建設部門（河川、砂防及び海岸・海洋）

1. 自己紹介：

私は 1974 年（昭和 49 年）に、北海道内でも豪雪で有名な岩見沢市で生まれました。中学までは岩見沢市で暮らしましたが、その後、苫小牧高専の土木工学科を経て、1995 年（平成７年）に株式会社北海道水工コンサルタンツへ入社しました。就職を機に札幌市に移転し、現在に至ります。

私は小さい頃から目立ちたがり屋で、小学生時代は児童会長、中学生時代は生徒会長、高専時代は学生会長を歴任してきました。現在はコンサルタントとして、公益確保のために、専門的な事柄について相談・助言・指導を行う日々を過ごしておりますが、当時の経験が幸いしているのか、人前で話すこと、何かを伝えることが好きで、忙しいながらも充実した毎日を過ごしております。

現在の会社に入社してからは、中小河川の高水流出解析や河道計画および護岸や樋門などの河川構造物等の計画・設計業務を担当してきました。最近は、中小河川の河川整備基本方針（案）および河川整備計画（案）の策定や住民参加方式による川づくり計画の策定などの業務に携わっております。

現在、治水計画に携わる技術者として業務を行う中で、治水安全度の確保と自然環境の保全の両立といったことが、非常に難しい問題と感じております。今後さらに技術研鑽や経験を積みプロポーザル等において、より良い技術提案をしたいと思っています。

2. 受験体験談：

技術士受験の動機は、技術的な信頼を得ることやプロポーザル業務に参加することの他に、社内の技術士の仕事振りを見て、自分もそういった技術者になりたいと思ったことが大きな理由です。

技術士第二次試験の初受験は、2001 年（平成 13 年）です。それから数えること 10 回目のチャレンジでようやく合格することが出来ました。その間、技術士試験制度の変更に伴う第一次試験の合格と、シビルコンサルティングマネージャー（河川、砂防及び海岸・海洋）の合格も経験することが出来ました。かなり回り道をしましたが、より広い知識の習得に繋がったと思っています。

受験に向けての準備では、社内の支援体制や受験者同士の勉強会が効果的でした。筆記試験対策では、解答論文について、先輩技術士に何度も査読して頂き、合格論文レベルを叩き込んでもらいました。また、口頭試験対策では、先輩技術士による模擬試験を受けることと、これまでの業務経験を振り返り、体系的な技術確認に重点をおいて取り組みました。

口頭試験当日は、人前で話すことが好きな性分とこれまで積み重ねてきた勉強の蓄積もあり、一通り質問に答えることが出来ました。その結果、技術士第二次試験合格という栄誉を勝ち取りました。

3. 今後に向けて

今回、技術士に合格できて、やっと責任ある技術者としてのスタートラインに立てたと感じています。

次の目標である、総合技術監理部門の取得を目指して、今まで以上に自己研鑽したいと思います。

今回の合格は、私個人の力だけでは成し得ることは出来ませんでした。先輩技術士の皆様には、私のために論文の添削、模擬試験および受験アドバイスをして頂きました。友人・知人からは励ましのお言葉もたくさん頂きました。また、全面的にサポートしてくれた家族と皆さんに心より感謝致します。

最後になりますが、今回の投稿は先日の祝賀会の場で、偶然にも隣の席だった広報委員長に機会を与えて頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。